群教セ	G14 - 01
	平 15.213 集

地域の人とかかわりながら 人の生き方に気付く総合的な学習の時間

ー「ごうどふれあいカルタ２００３」の作成づくりにおける交流活動を通してー

特別研修員　　小林　あやみ

《研究の概要》

本研究は、地域のよさを再発見する活動を通して、地域を守っている人々の生き方に気付かせる児童の育成を目指す実践的な研究である。具体的な手だてとして、地域の方や友達、２年生などと交流活動を行いながら追究を深めていく。追究の結果からわかったことや人に関する情報は、交流コーナーに掲示する。そして、自分たちの目でみた地域のよさや人々の生き方を、自分の生活とのかかわりでとらえさせるようにしていく。

【キーワード：教育課程　総合的な学習ー小　地域教材　主体的活動　表現活動】

Ⅰ 主題設定の理由

本校は周りに田園風景の広がる、のんびりとした緑豊かな中に位置している。市街地から少し離れているため、学校の周りにはいくつかの商店が建ち並び、小さいながらも町を形成している。開校130年という伝統からもわかるように、祖父母や保護者にも卒業生が多くみられ、何代にもわたって地元で生活している人もいる一方、宅地の造成で他から転入してきた人もいる。しかしながら、いずれも子どもたちの世代になると地域との関わりは希薄であり、地域のよさを認識したり伝統行事に参加したり､地域の人と交流したりすることが少ないようである。

本学年の児童（５年生　男子44名、女子60名）は比較的穏やかである。学習活動においても指示されたことには素直に取り組み、基本的な学習習慣は付いている児童が多い反面、課題をもっても自分の力でうまく追究しつづけることが困難な面が見られる。又、体験的な学習をしても、学習内容を次に生かしたり、相互に関連づけて考えたり表現したりすることが弱い面もある。

そこで本単元では、意欲や追究を持続し深めるために、地域の人々や友達、２年生との交流活動を中心に人と関わることを意識させながら進めていきたい。地域の方を招いてのお話を聞く会、交流コーナーを通しての友達との交流、２年生との生活科での交流などを行うことは有効であると考える。そして歴史ある地域や学校のこと、いくつもの古墳、大きな埴輪、蛍の里、桜の名所、駅名など小さいときから慣れ親しんでいる身近な地域をもう一度みつめ、地域のよさを発見させたい。又、調べたことを２年生にもわかりやすいように自分たちのカルタにまとめる表現活動をすることにより､自分たちの言葉で表現し伝えることの楽しさも体験させたい。更に調べていく中から、地域のよさは地域に生きる多くの人によって守られ受け継がれていくという人々の生き方や思いに気づく児童の育成を図りたいと考え、本主題を設定した。

Ⅱ 研究のねらい

総合的な学習の時間において、２年生や地域の人々、友達との交流を行うことにより①地域のよさにかかわる課題を明確に設定する活動、②友達との情報を交流させる「交流コーナー」や地域の人々との交流活動により追究を深める活動、③追究活動でわかったことをカルタに表

現し広げる活動を行うことにより、地域のよさを知り、更には地域の人々の生き方に気づくことができる学習になることを、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

1　課題を設定する段階において、家の人に尋ねたり、地域の方に地域のよさを話していただいたり、２年生と交流をもったりすることにより、地域に対する関心をもつ。更に友達に紹介する課題発表会（交流活動）を通して課題が明確になり、解決への意欲が高まるであろう。

2　課題を追究する段階において、児童が地域の方にお話を聞いたことなどを交流コーナーに掲示し、お互いの情報を交換し交流を図る。更に、人にかかわるコーナーを設置したり、地域の方を招いてお話を聞いたりすることにより、地域のよさを知り人の生き方にふれることになるであろう。

3　まとめる・広げる過程において、地域のよさや人々の思いを２年生にもわかるようにカルタにまとめる活動をすることにより、これらを守り支えてきた人々の生き方のよさにも気づくであろう。

IV　研究の内容

1　基本的な考え方

(1)　「地域の人とかかわりながら」とは

地域のよさを追究していく中から、地域の人の思いや願いに気づかせたい。そのためには自分たちの生活や身近にはたくさんの人とのかかわりがあるということを意識させようと考えた。日常の生活の中では、友達や家族、教師といった限られた中でのかかわりが多く、地域の方に触れることが少ないと思われる。ここでは主に、地域の方を中心にゲストティーチャーとして地域自慢をしていただいたり、児童がお話を聞きに伺ったりする。この地区の様子をよく知っている方に直接話を聞くことは、更に疑問をもったり深めたり、次への手がかりを得たりすることができると思われる。又、人とのかかわり方も考えられる。態度面はもちろんのこと話を聞く中から、自分の目的にあった情報を正確に聞き取る力をつけたり、相手の気持ちまで考えさせたりしたいと考える。「何を聞いてくるのか」「どんなふうに聞くのか」など深く考えさせたい。その他にも、２年生に生活科での地域探検のことを聞いたり、友達との交流コーナーで情報交換をしたりすることにより、多くの友達とのかかわりが得られ、追究意欲の持続やより多くの考えに触れることができると考える。

(2)　「地域の人の生き方に気付く」とは

ア　地域の人の生き方に気付く児童の姿

地域の具体的な事物をとらえる中から、価値を見いだしその中からその背景にある人々の生活や思いや願いなどをとらえることのできる児童を育成したい。更にその思いや願いを自分の生活の中に生かしていこうとする姿を段階別に考えた。なおこの単元では、４の段階までとらえさせたいと考えるが、向上目標として５を設定した。

表1　人の生き方に気付く段階

	地域の人の生き方に気づく児童の姿	具体的な子どもの姿の例
5	地域のよさを守り続けようと自分なりに意識し、行動をおこす。	地域で興味のあることを見つけ進んで調べたり参加したりする
4	地域の人の思いや願いを自分の生活とのかかわりで考える。	地域のイベントやお祭り、地域行事、学校行事に参加する。
3	地域の人の思いや願いを知る。	進んで地域の人とかかわり、地域行事に参加する。
2	地域のことを知りよさを見つける。	進んで地域の人とかかわる。
1	地域のことに関心がなく何も気付かない。	地域の人とかかわりがもてない。

イ　人の生き方に気付く指導の手立ての工夫

「地域の人の生き方に気付く」児童を育てるために、以下①～③の人と人とのかかわりを意図的に設定し、活動を計画的に実施していく。

①「交流活動」

課題をつかむ段階で課題発表会（交流活動）を行うことにより、自分の課題を意識し、更に友達の課題を聞く事により､みんなで地域のことを知るという気持ちや関心が高まると考える。又、追究の段階でも中間交流会（交流活動）を行い意見の交流を行うことにより、よりよい解決の手がかりや方法を見いだすことができると考える。

②「交流コーナー」

交流コーナーも学級から運営委員を選出、組織し、教え合いや相談など積極的に活躍、交流できる場にしたいと考える。又、地域の人の生き方に気付くよう、人にかかわるコーナーを設置し、追究の段階で分かったことや特に人の生き方に関係したものを随時掲示し、情報交換をする場にしたいと考える。

③ 「交流の発表」

中間交流会でも、追究の段階で人とかかわることにより気付いたりわかったりしたことなど人にかかわる項立を設け、人を意識させながら発表させていきたい。又、常に自分とのかかわりについて考えさせたい。

(3) 「ごうどふれあいカルタ 2003」とは

強戸の町には古くから「強戸カルタ」が伝承され、児童にとってカルタはなじみが深い。ここでは従来からのカルタも参考にさせながら、児童が見つけた強戸の町のよさや、住んでいる人々の思いや願いを自分たちの言葉でカルタの中に取り入れ、自分たちの手でカルタ作りを行わせたい。絵札も、２年生にもわかり楽しんでもらえるような表現を工夫したり、読み札の中に、地域の方や子どもたちの思いを込めさせたりしていきたいと考える。又、感謝の気持ちを込めてお世話になった方にも発表会に来ていただいたり、作ったカルタをプレゼントしたりすることにより、地域の方との交流を図っていきたい。

（４）　研究構想図　　（全24時間予定）

見通し１《 課題作り 》 １０月		見通し２《 追究する 》 １１月		見通し３《 まとめる・広げる 》 12月
交流活動を通して、地域について関心をもち、解決への意欲をもつことができたか。 ６時間	⇒	友達や地域の方と交流しながら地域のよさや人の生き方に触れることができたか。 １０時間	⇒	人の生き方のよさに気付くことができたか。 ８時間
○２年生との交流や地域の方の話を聞くことにより、課題を意識するであろう。 ○課題発表会を行うことで、より課題に関心をもつことができるであろう。		○課題解決にむけて、追究の計画や見通しを面談をすることで追究の仕方がわかるであろう。 ○交流コーナーを自主的に運営させたり人に関する情報コーナーを設けたりすることにより、追究が深まるであろう。 ○地域の方のお話を聞くことにより、人の生き方への気付きになるであろう。 ○中間交流会を開くことにより、解決の見通しやヒントを得られるであろう。		○カルタづくりの中でわかったことを自分の言葉で表現し伝える喜びをもつであろう ○地域の人の思いや願いに気付き、これからの生活で具体的な目標を持つことができるであろう。
《手だて》 ①２年生との交流活動や地域の方をゲストティーチャーとして招き、話を聞く ○ウエビング（１回目） ○面談		《手だて》 ①地域の方との交流活動 ②友達との交流活動、交流コーナー ○道徳の時間の設定（郷土愛） ○ワークシート ○面談 ○ウエビング（２回目）		○ 調べた内容を２年生にもわかりやすくまとめたり、発表したりする活動。 ○ウエビング
検証の方法 ○課題みつけカードの記述 ○発表会後の振り返りカードに記述した内容 ○抽出児		検証の方法 ○ワークシートや振り返りカードの記述 ○面接・観察 ○中間交流会の発表の様子や内容。交流会後の振り返りカードの記述		検証の方法 ○振り返りカードの記述 ○観察 ○発表会の内容や様子 ○抽出児

	○抽出児	○作文

2　実践の概要及び結果と考察

考察は、抽出児の活動を中心に授業記録や振り返りカード、意識調査に記述された内容をもとに行う。抽出児Ａ子は、様々な活動にまじめに参加するが、自分の活動に自信がもてず課題に対して最後まで追究し続けることが苦手である。この学習において、自分の課題に対し人とのかかわりをもつことや適切な声かけや面談を行っていくことにより意欲の持続や追究の高まりが身に付くと考える。「地域の人の生き方に気付く児童の姿」で２の段階の児童である。

(1)　交流活動を通して地域について関心をもち解決への意欲がもてたか。（見通し１）

ア　実践の概要

各自で地域のよさについて考えた後、生活科で町探検をした２年生との交流活動を行った。そして全体で地域のよさについてのウエビングを行い、その中から個々に課題を見つけた。その後ゲストティーチャーに地域のことを教えていただきながら、自分で興味のあること、調べてみたいことなど課題ごとにグループを作り、グループで課題ごとのウエビングを行った。更にグループごとに調べたいことや調べ方などについての課題発表会を行った。アンケートの結果は、５年生の児童 104 名の集計結果によるものである。

イ　結果と考察

最初に各自で家の人に尋ねたり、２年生に町探検のことを聞いたりする中から地域のよさを見つけた後、全員でウエビングを行った。その後、ゲストティーチャーに地域のことを話していただいた。児童からは、「２年生の話を聞いて、ぼくたちも２年生の時お寺や神社にいったことを思い出した。」又、ゲストティチャーの方の話についても「ごうどにもいろんな古い所があるんだなぁ。歴史があるんだ。」「○○さんは、いろいろなことを知っている。私もこれからいろんなことを学んでいきたい。」「行ってみたいところが増えてしまい、いってもいないのにワクワクした。」と地域に対する新たな見方や課題設定に意欲が見られ、ほとんどの子たちが地域に関心をもち自分なりの課題がもてた。又、ゲストティーチャーの話の内容によっても、興味や関心がうつったり、話を聞く中から自分の課題への思いが深まったりした。

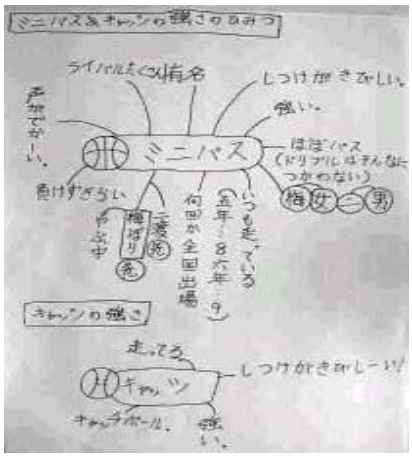

図1　A子のウエビング (10/21)

抽出児Ａ子は、友達がソフトボールのチーム（キャッツ）に入っていることや自分も金管バンドでがんばっていることから共感をもち「ミニバスとキャッツの強さのひみつ」を課題に選んだ。図１のウエビングの中にあるように「いつも走っている」ことに目をむけ、一番聞きたい質問にした。図２は、最初に考えた質問である。インタビュー後「何を聞いたらいいのか分からない」と話していたＡ子に、キャッツのコーチが１５年間も指導してくれていることから、「何でこんなに長くコーチをしてくれているんだろうね？」と問いかけ面談を行った。その後、Ａ子が考えた質問が図３である。「教えている子たちにどんなバスケをしてもらいたいか」と質問内容に深まりが見られる。

課題発表会では、友達の課題の内容に話を進めたり、具体的なアドバイスまでできたりした子は少なかった。しかし何人かは他の課題にも興味をもち、又、「休みの人の分をしている。ぼくもその子の分をしてあげたい。」と友達とのかかわり方に気付いた児童もいた。

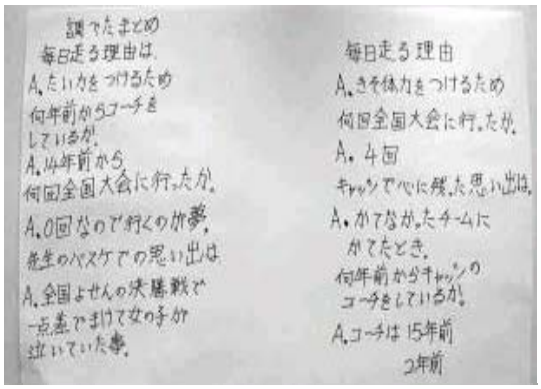

図2　A子の最初の質問

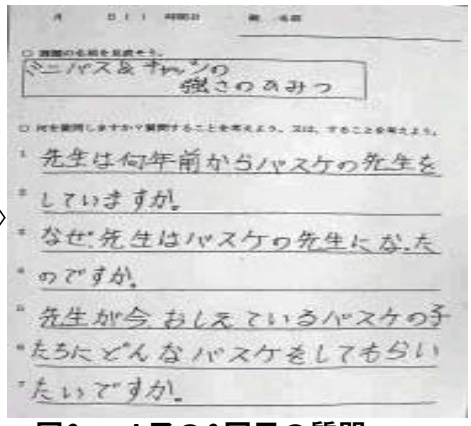

図3　A子の2回目の質問

課題をもった気持ちを４段階に表したものが図４である。「ワクワクしている」44 人、「少しワクワクしている」33 人、「心配」22 人、「何とも思わない」１人（100 人集計）であり、心配と答えた児童は、ちゃんとできるかどうか又、人に聞けるかどうかという心配が多かった。しかしほとんどの児童が自分なりの課題をもつとともに自分の課題に期待感をもっていることがわかる。Ａ子も「ワクワクしている」につけている。これらのことから、２年生や友達、ゲストティーチャーとの交流活動は課題に関心をもち課題解決への意欲をもたせるための有効な手だてであるといえる。資料１は、児童の課題の一部である。

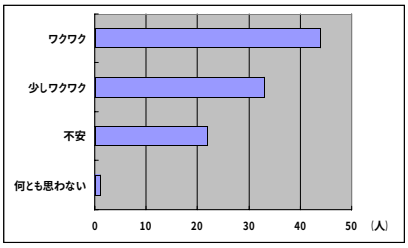

図4　課題をもった気持ち

資料1　課題の一覧　一部

・二つ山古墳について　・強戸の野菜農家のひみつ
・八王子農園の梅ジュース　・１０円店のなぞ
・強戸の遊び・遊ぶ場所　・治良門橋駅の名前
・強戸の人のよさ　・強戸保育園の歴史
・ミニバスとキャッツ強さのひみつ
・廃品回収について　・挨拶週間・ビオトープの自然

(2)　友達や地域の方と交流しながら、地域のよさや人の生き方に触れることができたか。
（見通し２）

ア　実践の概要

課題ごとのグループで、調べ方の方法や質問などを考え、一回目の調べ学習を行った。学習後、各グループごとに面談を行い、いろいろな情報を整理し、「どうしてそこにあるのか」「どうして続けているのか」など更に聞きたい内容を明らかにしていった。課題の付け足しや情報交換は交流コーナーを利用し共通理解を図った。その後２回目の調べ学習を行い、少しずつ個々の課題の中から地域のよさや人に関する情報を追究していった。途中、道徳の授業（単元名「親から子へ、そして孫へと」）も行い、自分たちの地域のよさや伝統に目をむけさせた。その後、課題の中から、地域の中で活躍してくださっている方をゲストティーチャーとして招き、お話を伺った。中間交流会では、調べてわかったことを発表したり情報を交流したりした。

イ　結果と考察

一回目の調べ学習後の自己評価において「もう少し」と答えたグループが多かった。そこで「もう少し」という児童を中心に「何を聞きたいか」「何を調べたいのか」と問いかけや面談を行いグループの中で質問内容を明確にしていった。又、一回目から「よくできた」と答えた中には、保育園の歴史を聞いたり、保育士の方の仕事の様子を間近で見せていただいたり、小さい子のお世話のお手伝いもさせていただいたりして、満足し成就感を味わったグループもあった。これは児童の調べたいという強い気持ちの表出と受け入れ先の方々のご理解により実現

したと思われる。面談や問いかけ又、グループでの交流活動により二回目の方が「よくできた」と自己評価をした児童が増えた。しかし、「がんばろう」と答えた児童の中には「石ってもんは、簡単に調べられるもんじゃない」「むずかしい」と課題によっては、とりかかりや追究のむずかしいものもみられた。図５は、調べ学習の中でどれくらい地域の方とかかわっているかを調べたものである。一回目と二回目を比較すると、地域の人に触れたりかかわったりできた児童は、28 人から 66 人と増えている。二回目になると感想にも人にかかわったものが増えてきており「いろいろな人などに、聞いたりしておもしろい。」「強戸の町の人はやさしい。強戸の町には、古い物がいっぱい。」などがあった。これは、調べる学習や人にかかわることに抵抗がなくなり、聞くことによりいろいろなことを知ることに気付いたことがわかる。又、調べたことを「交流コーナーや人に関する情報コーナー」に掲示することにより、次に調べる時の手がかりになった。

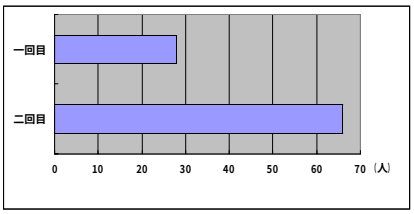

図５　地域の方とかかわった人数

「ごうどの人のよさ」、「あいさつをしたあとの気持ち」などを課題にもった児童は、学年やクラスの子たちにアンケートをとりまとめていた。このことからも児童がお互いに交流し協力する様子が見られた。又、ゲストティーチャーには、キャッツ（ソフトボール）の監督と保育士の方に仕事にかける思いや子どもたちへの願いをお聞きした。感想として「ほいくしの仕事はいいこともあって、大変なこともたくさんあるんだなあ。人間は大きくなるまでにたくさんの人に育ててもらうのだなぁ。」、「人間は、一人じゃ生きていけないなんて知らなかった。友達は大事なんだなあと思った。」とほとんどの児童が人や友達に視点をむけた感想がみられた。

図６　　A子のウエビング（2回目）11／25

Ａ子は、ミニバスのコーチやキャッツの監督にも、練習の折りに何度か訪ね、質問を重ねていった。キャッツの監督さんにＡ子は「ソフトを通して、みんなにどんなことを願っていますか？」と質問した。その時のＡ子の感想は、「強戸のバスケとキャッツはじまんできる。強戸のバスケとキャッツは、みんなを信じているから強いんだなぁと思った。」と書いている。図６は、２回目のＡ子のウエビングである。話を聞く中から広がりや深まりが見えた。資料２は調べ学習後のＡ子の感想である。人の考え方や生き方に触れていることがわかる。

資料２　Ａ子の感想

> 最初は、「強いんだ」としか思わなかったけど、調べていく内に「何で強いんだろう」「何で毎日走っているんだろう」と疑問が次々に生まれてきた。そしてそれを調べていく内に、「ただ強いだけじゃないんだ。」と調べる前から比べて気持ちが変わりました。かんとくのお話を聞いて友達の気持ちや大切さが分かるようになった。
> 保育士さんは、私たちが生まれてきたころから、お父さん、お母さんは私たちを見守ってきてくれていることがわかった。

資料３は、中間交流会後の児童の感想である。地域や人への思いが自分とのかかわりで触れられていることがわかる。これは中間交流会で、個々に調べてわかったことをお互いに発表し

共有することにより全体へと深化したものと思われる。調べ学習後に人の生き方にふれられたと思えた児童は 20 人であったのに対して、中間交流会後は 34 人と増えたことでもわかる。A子は、「強戸の人は親切でいろんなことを教えてくれた。私も子どもに昔のことを話せたらいいなぁと思いました。」と書いている。地域のよさを守っている人のいること又、自分たちが守っていくことの大切さを感じ取ったようである。

資料３　中間交流会後の感想（一例）

- 私たちのやっていることが、自然をよごしたり歴史をなくすことになっているとは知りませんでした。人のよさに興味をもちました。
- 人と人がかかわりがもてる、お年寄りでも小さい子でも仲良く暮らせる強戸の町ができると思う。そうなったらいいなぁ。
- みんないっしょうけんめいやっているのかなぁ。昔からの伝えをちゃんと守りたい。
- 何かを作る人はそれを大切に作ってもらいたいとか、食べ物を作る人は、害のないように作っていることがわかった。

このことからも、友達や地域の方と直接、交流することは、今までとはちがった地域のよさを知り又、多くの人にかかわることにより、人のよさや人の生き方にふれることになる。更に自分自身も見つめることができると思われる。

(3)　人の生き方のよさに気づくことができたか。　（見通し３）

ア　実践の概要

課題ごとのグループで、調べた内容をもとに、地域の人の思いや願いを取り入れた読み札を考え、全体の中で決定していく。絵札とともに作り、２年生やお世話になった地域の方をお呼びし発表会を行った。その後カルタを完成させ、お世話になった方に持っていったり、２年生と一緒にカルタ大会を実施したりした。

イ　結果と考察

読み札を考える時に、「読み札にどんなことを入れていったらいいかな」と問いかけた。児童の中から、「いい所や名物を入れたい」「歴史や伝統」「わかったことを伝えたい」「聞いたことや守っていること」「人のことや気持ち」「自分がこれからできること」が出された。又、「わかりやすく、楽しい、心に残るものにしたい。」という意見も出された。「みんなのカルタ 2003 を作ろう。」と主に自分たちの課題を中心に個人やグループで考えたものを全体の中で発表しあいながら、感想や意見を述べ合って読み札を決定していった。課題によっては内容が重なり何枚か同じ課題のものを作ったり、足りない読み札はみんなで考えたりしながら、子どもたちの課題に合わせた読み札ができた。

資料４　カルタの読み札（一例）

- あたらしい強戸の文化向山古墳
- えきめいと歴史にのこる治良門
- ふるさとにかえってきたよ　治良門橋駅
- かんとくはキャッツをささえる　力のもと
- こうちょう先生もにこにこあい　さつあいさつ週間
- ちいさい子笑顔あふれる保育園
- バスケ部は仲間がいるから　がんばれる
- 昔からみんながもってる　やさしい心
- 和だいこは伝統という名の　大だいこ

資料４は、子どもたちが考えた読み札である。この他にも「ほうれん草ごうどで一番作られる」、「てんじょうの鳥が見守る永昌寺」と調べ学習でわかったこと、人に聞いてわかったこと、みんなに伝えたいことを読み込んだ。更に、ゲストティーチャーに来ていただいた方について「○○さん、何でも知ってるものしりはかせ」「みんなして、いい汗かいてるキャッツのチーム」、「外に出て元気に遊ぶ強戸っ子」と子どもたちなりの見方で人についての気づきや気持ちが読み込まれている。A子たちのグループもキャッツとミニバスについて、「かんとくはキャッツをささえる力のもと」「バスケ部は仲間がいるからがんばれる」と読み札を作成した。

ゲストティーチャーの方を招いての読み札と絵札の発表会も、交流活動や交流コーナーなどで活躍してくれているごうどの係りの児童を中心にグループごとに自分たちの思いを込めたものを発表した。ゲストティーチャーの方々も「よく調べたね。強戸の町のことがよくわかるよ。」

「何かをするということは、大変なことだよ。これからも、もっともっとがんばってね。」というコメントをいただいた。

更に、各グループごとにカルタの大きさの厚紙に書き表し「ごうどふれあいカルタ 2003」を完成させた。保育園や幼稚園でお世話になったグループの子どもたちがカルタをもちお礼に伺ったところ、心から喜んでいただけた。２年生ともカルタ大会を催した。５年生も自分たちが楽しむだけでなく、小さい子を楽しませてあげたい、笑顔がみたいという願いをもった言葉かけや行動が見られ、にぎやかな歓声の中に満足感や達成感が感じられた。カルタ大会後２年生の各クラスにもカルタをプレゼントした。

表2　「生き方に気付く」に関する児童の変容

段階	学習のはじめ	カルタ作成後
5	２人	２５人
4	５人	５５人
3	１６人	９人
2	６７人	１３人
1	１４人	２人

表２は、「地域の人の生き方に気づく」ことについて、学習の最初とカルタ作成後に行ったアンケートの結果である。地域の人の生き方についてそれぞれの段階において、向上したことがわかる。Ａ子は、初めが段階２、作成後には、段階４に変わったと答えており、人について深く意識できたようである。資料５は、Ａ子の学習後の感想である。人の大切さを知り自分自身も見つめている様子がわかる。更には、これからみんなと一緒に行動しようとする気持ちも表出している。

資料５　学習後のＡ子の感想

こうして調べていると、私たちは一人じゃないんだなぁと感じます。なにをするにも仲間がいる。私たちは、人にささえられて初めていろんなことを知ることができます。これからは、友達を大切にし、みんなといろいろな事を知りこのごうどの町のよさ、自然を大切にしていきたいです。

この活動全体を通して、児童は今までの身近な人だけでなく、多くの人と触れあいかかわる交流活動を行うことにより、その人たちの生き方やよさにも気付くことがわかった。

Ⅴ　研究のまとめと今後の課題

1　研究のまとめ

地域の人々や２年生、友達といった、人との交流活動を課題設定や追究場面で取り入れたことは、地域や人、友達に対するよさを認識したり、今までとは違った見方や感じ方に気付いたり、新たな追究の意欲をもつことができたりした。又、多くの人とのかかわりにより疑問が解決することや人との触れあいをより身近に感じ、その人の生き方やよさにも触れられた児童、更には自分も地域の中の一人であるという自覚をもつことができた児童も見られた。

2　今後の課題

○ 人の生き方のよさに触れられたり気付いたりした児童は、地域の方との交流場面や人とのかかわりが多かった児童である。交流活動の機会をより多く設定することや活動が深まるような問いかけや面談の時間を十分にとれるような支援の方法を考えていきたい。

○ 人のよさに気付くには、人のよいところをみつけたり、気持ちを理解したり、寄り添ったりなど、心をたがやす指導が必要である。より児童の心に働きかけるような支援をしていきたい。

○ わかったことや伝えたいことを的確にまとめることや思いを自分の言葉で書いたり、発表したりという表現力の育成にも力を入れたい。

＜参考文献＞

・高浦勝義著　『問題解決評価』－テスト中心からポートフォリオ活用へ－　明治図書(2002)
・安藤輝次著　『ポートフォリオで総合的な学習を創る』　図書文化　(2001)